

第15回 第3次東員町行財政検討委員会会議録

1. 開催場所	東員町役場 西庁舎201・202会議室
2. 開催日時	平成25年7月29日(月) 午前 9時30分 開会 正午 閉会
3. 出席委員 (敬称略) 出席幹部	岩崎恭典 酒谷宜幸 阿久根チサエ 川杉美津江 馬場順子 三浦信一 毛利次郎 藤田昌義 伊藤郁子 伊藤英也 中村宗和 種村拓夫 総務部長 総務課長 政策課長 財政課長 総務課課長補佐及び係長
4. 内 容	<p>○事務局から本日の協議事項・配布資料について説明</p> <p>1. 委員長あいさつ ○会議録に基づき、委員長による前回会議の振り返り。</p> <p>2. 第14回第3次東員町行財政検討委員会の会議録について ○第14回の会議録についての内容確認(決定)</p> <p>3. 協議事項 (1) 提言書に対する対応について ①東員町商工会</p> <p>委員長 : お忙しい中ご足労いただき、ありがとうございます。行財政検討委員会から商工会へ提言書をお出しさせていただきました。今日は、その提言書に基づいて、商工会がどういう形で今後動かれる予定なのか、或いは、今、こういう形で対応しているということがありましたら、是非お話しいただきたいです。手元には、商工会から4項目の提言に対する対応の回答書をいただいておりますので、それについてご説明をお願いいたします。</p>

○東員町商工会「回答書」に基づき説明

委員長 : 私たちが出した提言に対する対応についてご説明いただきましたが、対応の3番目「事業の棚卸しを通じて業務整理を行っている」とありますが、具体的な内容はどのようなものをお考えになっているのですか。

商工会 : 昨年は商工祭に費用をかけ過ぎましたので、内容を絞りながら検討しております。

委員長 : 具体的には商工祭の内容の検討ということが、これの意味するところということによろしいですか。

商工会 : 今のところそうです。

委員長 : 「地域活性化、コミュニティ機能維持活動に努めたい」ということで、防犯パトロールの話をお伺いしましたが、他には何か具体的な今後の取り組みはお考えですか。

商工会 : 今のところは、これを続けていきたいということと、子どもを守る家として、事業所の見えるところに青いカードを貼っていただいています。

副委員長 : 各委員、質問の出しどころがないというのが、正直なところかと思いますが、私たちの提言を受けて、何が変わったのかが感じられない報告です。

書いていただいていることは、これまで真摯に取り組んでいただけてきたことだと思うが、私たちの提言を受けて、どう変わったのか、何を変えたのか、何が変わろうとしているのかが分かるような報告書になっていません。少なくとも私はそう読めました。ですから何を質問していいか分から

ないというのが、皆さん正直なところではないでしょうか。

今日もパンフレットを配っていただきましたが、パンフレットを見ると、24年8月発行と書いてあります。つまり、私たちの提言を受ける前の資料です。これをこのまま使っていきますという話なのか、それともこの提言を受けて、今、こういう赤を入れていきますというベースとして、こう変えていくというお話しをいただけるものと思いましたが、これに対する説明もありません。

もう少し補足的な説明をいただけると、商工会に対するこれからの期待も感じられると思いますがいかがでしょうか。

商工会 : 商工会は、これからもこの事業運営をきちっとや
って行くための商工会であって、経済の情勢により
いろいろな変わる道はありますが、今の状況といた
しましては、商工会が50年経過してきた現在、こ
れでは商工会はダメですよという考え方、商工会の
これからのあり方の勉強会はたくさんやってきま
した。その中で、中小企業経営力強化支援法が、昨
年8月に成立しました。中小企業に厳しい経済環境
が続く中で、事業者がどのように生きていったらよ
いかを認定支援機関として支援していきます。

商工会は、いかに会員の支援をさせていただくか
を努力しております。商工会は、すべては会員のため
にあります。それこそが、商工会の事業の運営にあ
たって決して揺らぐことのない活動理念でもあり
ます。商工会は会員事業の発展と支援を使命とし
ている。その中で地域の振興、活性化に取り組ん
でいます。

補助金をいただけるのでいいとか、どうやって使
おうとかを考えている間はありません。会員がいかに
この厳しい経済状況下で生き残れるか、それ一つ
なのです。

	<p>委員長 : 昨年8月の強化支援法に基づき、商工会の新たな役割が加わったというご認識だと思いますが、その結果として、商工会の会員数が増えたということはありませんか。</p> <p>商工会 : 東員町は他県の商工会より状況はいいですが、会員増は1番ネックなところですよ。商工会の防犯パトロール隊を結成し、アピールしています。</p> <p>委員 : 団地のサービス業は昔に比べれば絶滅に近い感じである。商工会の活動が現実的に機能していないのではないかと。20人以下の企業は地元の方を雇われていると思いますが、現状が全然、おもてに出ていない。</p> <p>今度、イオンモールができるが、町がバスを出すか、イオンモールがサービスで出すか知りませんが、あんまりまで行ってはいられません。とにかく、自分の近くに何も無いという状態を商工会はどうお考えか。</p> <p>商工会 : 商工会は事業者のやる気を応援していきます。イオンモールとは5、6回話し合いをしているが、商工会の中で、イオンモールにテナントを出す方は誰もいないと思います。イオンモールに商工会会員が喧嘩をして勝つ見込みはないので、共存共栄していく話し合いをしています。</p> <p>土日祝日は無料で商品を置いていただき、その売上の何%かをお返しさせていただくということで了解を得ました。そして、この11月のオープンに向けて募集をさせていただきます。そのようなことで、商工会は少しでも会員のため、地域のために活動しています。</p> <p>先ほどやる気について言いましたが、事業所ごとに考え方は違い、一生懸命考える方とそうでない方</p>
--	---

	<p>と様々であり、そこを商工会の職員が、巡回訪問をさせていただき、いろいろな課題を解決しています。</p>
委員長	： イオントウンは商工会の会員になるのですか。
商工会	： 会員になっていただく約束をしています。
委員長	： ネオポリスにお茶を飲む所も、食事をする所もないという状況の時に、空き店舗で何かやってみようというグループがいて、そのグループに対する立ち上げ支援はあるのですか。
商工会	： それはさせていただいています。それは何故できるかという、町から補助金をいただいていますし、小規模事業者支援事業には県からいただいています。
委員長	： そのニーズは、会員事業所を回っているだけだと出て来ないのではないのでしょうか。
商工会	： 直接、希望を持った方が、商工会で相談に乗ってもらえると聞いて、今も1件来られています。そういう方には、創業に対する準備期間も含めまして、いろいろお手伝いをさせていただいています。
副委員長	： マッチングの工夫をどうされているのですか。
商工会	： 地域内を歩いていて開業を聞くこともありますが、こちらから直接的には拾いにくいのが現実です。
委員長	： 今後、団塊の世代が70歳になり、事業を廃業される方が大量に出てくるのではないのでしょうか。それに対して、どう事業継承していくのかだと思いま

	<p>す。この冊子を拝見したときも、「地域のビジネスをもっと強く、コミュニティをもっと元気に」というのであれば、コミュニティビジネスをどう支援するのかという話をもっとあってもよいと思います。</p> <p>会員の事業継承の話と新規の創業で東員のために具体的に商工会はどういう役割が果たせるのか、或いは今後果たすつもりなのかというものも、ここの中には欲しいと思っていました。</p> <p>商工会 : 東員町でも新しく商売をやっている方も何軒かあります。商工会の「ザ・あきない」の中で新規紹介とかPRをさせていただいております。</p> <p>委員長 : 具体的な取り組みについて、今回の我々の提言を受けて、今後、商工会はこういうところに力を入れていくという方向性を示していただきたいと思うのですがいかがでしょうか。</p> <p>委員 : 一番大事なものは後継者問題である。商工会の会員に後継者があるかないかのアンケートを取られたらどうか。そして、マッチングできるものはマッチングし、廃業すると言われたら、それを利用できないかどうかを探してあげる。そういったことが重要ではないか。</p> <p>委員 : 個々の千差万別の悩みごとに対して、スーパーアドバイザー的な人がいる訳でもなく、もっと専門的に事業主としては考えていると思う。その辺のミスマッチが、商工会の立場では支援するとか援助するとか意識が大きいですが、個々の会員にとっては、商工会に相談しても詳しい人はいないという意識が強いのではないか。</p> <p>商工会 : 局長、経営指導員と話し合いをした中で、もう一歩上へ上がろうというのが専門家派遣です。今、こ</p>
--	--

	<p>の専門家派遣をどんどん使って支援をさせていただいています。</p> <p>委員長 : 今日、お話しいただいた対応の中では、会員ニーズ、将来に向けて事業継承の話、具体的に生活課題で困っている地域の状況があります。その地域の状況に、新規の事業、業態転換などのマッチングがこれからの商工会の大きな役割だとすれば、これから具体的にどう進めていくのかとか、会員数が増えてくるというのは、商工会の活動の成果指標になると思うので、今後の見通しを教えてください就可以了。</p> <p>これから観光協会の話伺いますが、観光協会から「町の特産品について、積極的に取り組んでいるが、商工会との連携にまでは至っていない」と回答を得ていますが、この点については、どうお考えですか。</p> <p>商工会 : 特産品については、今、特産委員会をつくって考えております。その中で、25年度はどうしていくか模索しているところです。</p> <p>委員長 : その中に、観光協会は入れるのですか。</p> <p>商工会 : 商工会も観光協会も一緒の感じでございます。今、特産品で考えているのは、商工会で作ったキャラクターである「と一馬くん」で何かつくれないかという案も出ています。</p> <p>委員 : 商工会にお願いしたいことは、足の問題である。先ほどイオンモールの話もでしたが、行政には申し訳ないが、サービスで行う運行は必要・有効であり大変よいが、非常に不安定なものである。お金がかかってもよいので、必要のある部分には、三重交通なり路線バスとしてきっちり整備していただき</p>
--	---

	<p>たい。そういうところを研究していただいて、商工会からも推し進めていただきたい。常に時間や路線が変わるようなサービスのバスでは不安で利用できない。その辺をお考えいただきたい。</p> <p>商工会 : 路線バスの件につきましては、行政でバスのことをやっていただいています。</p> <p>商工会は商工祭を行っており、商工祭にはお金がかかりますが、行政から平成26年度からは0円という回答がありました。町をあげての1年に1度の祭りを行政と一緒にやりたいのです。</p> <p>委員長 : 補助金は税金の一部を優先的に商工祭に出すということになるので、その事業の効果を測定しなければなりません。商工会も税金の一部が有効に使われていることを説明することが必要になります。</p> <p>商工会 : 説明するには、この10月13日に東員町商工祭が中部公園で行われるので、是非来てください。それを見ていただければ商工会がどのような活動・PRをしているかが、お分かりいただけると思います。</p> <p>委員長 : その時にアンケートとか説明責任を果たせるような資料集めも、是非お願いしたいと思います。</p> <p>お忙しい中ありがとうございました。</p> <p>② 社団法人東員町観光協会</p> <p>委員長 : お忙しい中恐縮です。行財政検討委員会から観光協会に対して、いくつか提言を出させていただきました。それに対して、協会としても検討していただいたと思いますので、その回答についてお話しいただきたいと思いますので、簡単にご説明をお願いします。</p>
--	---

○東員町観光協会「回答書」に基づき説明

委員長 : 補助金を受けずに少しずつでも稼いで、町民の皆さんのために事業展開していくという明確な目標をお持ちというのは、正直すごいと思います。

中部公園の売店は4月以降、いい方向に向いているのですか。

観光協会 : 店舗もそう広くはありませんし、毎月の売上を見ていますが、来客者は1日20人～30人くらいです。平日は「いずみのパン」を売っています。ただ、子ども向けのもがないので、少し張り合いがないという声もあります。パークゴルフに県外から来られる方が多くいるので、商工会員から出店いただいている八百屋の野菜を買っていただいたりしています。

委員 : 中部公園のパークゴルフの運営は観光協会か町か、どちらがやっているのか。

観光協会 : 運営は町で、管理は観光協会が行っています。券を販売やパークゴルフの管理等を行っています。

委員 : 収入はどれくらいあるのか。

産業課長 : 年間管理委託で260万円ほどです。

委員 : 運営も観光協会でやるように町へ提案したらどうか。

産業課長 : 中部公園の担当は建設課であり、観光協会から中部公園を一括して、管理運営したいというお話をいただいておりますが、観光協会の現在の状況から、すべてをお願いするのは時期が早いと感じてい

	<p>ます。第一歩として、管理棟の運営をお願いしているのが現状です。</p> <p>今年から観光協会が補助金を辞退されたということで、いよいよ本腰を入れてやっていただけることを期待しております。最終的にはそういったこともありと思っています。</p> <p>委員 : 早くすべての業務を委託するようになっていただきたい。儲けて自立することが大事である。人材の育成をして、どんどん委託していかなければならない。</p> <p>委員長 : 観光協会が自立をして、町から管理運営委託を受けるとなると法人格を取らなければならないですが、それは何か想定されているのですか。</p> <p>観光協会 : 社団法人を考えているが、人材育成をしながらがんばっていきたい。</p> <p>委員 : 中部公園の使用は無料であるが、保育園の園児がバスで多く来ており、維持管理だけでも大変であるので何とかならないか。</p> <p>委員長 : 中部公園は都市公園なので、基本的には無料になります。だったらということで、駐車料金を取ったり物販で儲けるというのがありますが、建設課が所管しているということですが、町としてはそこまで考えてはいないのですか。</p> <p>産業課長 : 東員町でいちばん人の出入りがあるのが中部公園です。せっかくお越しいただいた方にお金を落とすていただくことを考えるならば、やはり物販しかありません。そういうことも踏まえて、4月から管理棟の一部を試験的に物販して運営していただいています。</p>
--	--

	<p>しかし、季節的なこともあり、夏場の昼間は、ほとんどお客さんは来きていません。そういった中で、観光協会、商工会が物販をすることは難しい状況にあります。そこでいかにお金を落とさせていただくかという仕組みを作ろうとは思っていますが、そこにしかない物ということで、特産品の開発等までには至っていません。</p> <p>委員長 : 特産品の話も出ましたが、商工会と観光協会との連携はどうなっているのですか。</p> <p>観光協会 : 話し合いをして、軽トラ市等を提案していますが、なかなか難しい状況です。</p> <p>委員長 : 商工会からお話しを聞いたときに、マッチングが大きな課題であるということは、ご認識いただいていると思います。中部公園をどう使うかということでのマッチングもあるはずです。観光協会としては、いろいろ提案するが、乗ってきてくれないというのが現状という訳ですか。</p> <p>観光協会 : 商工会も会員に声をかけていただいています。管理棟にまで来て販売をしたいという方がいなくて困っているというのが事実です。</p> <p>委員長 : ニーズがなさそうということで終らせるのではなく、どう成功させるかを考えなければなりません。本来、商工会が「コミュニティをもっと元気にと地域ビジネスをもっと強く」と言うのであれば、まさにそのネタとしての中部公園があるのです。もう少し連携をとってがんばっていただかなければなりません。</p> <p>委員長 : 会員の増強の話と今後の観光振興ということで商工会と連携をとっていただきたいです。町として</p>
--	---

	<p>も単に補助金を出すというだけではなく、支援できることを検討していただき、指定管理についても前向きに検討すべきであると思います。</p> <p>副委員長： 観光協会が商工会と連携をしようとしても非常にハードルの高いものがあります。町が調整機能を果たしながら、互いにタッグを組んでもらうように何かできないのですか。</p> <p>産業課長： 観光協会の会員は商工会の会員でもあります。観光協会の主な役員も商工会の会員です。その中で上手にやってということなんですが、今の観光協会と商工会はうまくいかない部分があります。</p> <p>副委員長： 商工会が会長個人のものならいいがそうではありません。町からもお金が入り、他からもお金が入っているので効果的に地域のために運営していってもらうためには、そこを超えてやってくださいということをしっかりしていかないといけません。</p> <p>産業課長： 商工会にはいろいろな部会があります。その中に観光部会を立ち上げていただき、観光部会と観光協会のタイアップというのがいいと思っています。</p> <p>委員： 観光協会が設立された時から現在までの経緯をよく把握していないと、状況は分からないと思う。そこは町が仲立ちしないと難しい。</p> <p>委員長： 今日、2団体のお話しをお伺いしていて、調整の話は町の役割としてあるので、そこは是非担当課としてもお願いしたいと思います。</p> <p>それではこれからも頑張ってくださいますようお願いいたします。ありがとうございました。</p>
--	--

(2) その他

○財政課長「まちしるとーいん」について説明

委員 : 消防費がかなり高いが救急車、消防車の1年間の出動回数は分かりますか。

財政課長 : 今すぐにはお答えできません。

委員 : 消防費が3億6,709万円であるが、これは桑名消防署に払っているのか。

財政課長 : 桑名市消防事務委託金として、2億7,063万円支払っています。

委員 : この委託金の算出はどのような根拠で計算されているのか。

この2億7,063万円の支出が妥当かどうか検討されたことはあるか。

財政課長 : 桑名市消防本部の全体の運営費を均等割と人口割で算出しております。それに東員分署の経費は東員町だけの負担です。

政策課長 : 2億7,063万円の委託金のうち、約1億8,000万円が東員分署にかかる費用です。これは事務委託でありますので、町単独でするより有利かどうかは、事務委託をする際に考慮した上で委託しております。

委員長 : 「まちしるとーいん」を発行されて町民のみなさんから個別の質問はありましたか。

財政課長 : 特にはいただいておりません。

	<p>委員 : 先日、町政懇談会があったが、示されるデータがわかりにくかった。せっかく町政懇談会をやられて熱意はよく分かるが、ごみの問題の算出基礎には不満があった。</p> <p>総務部長 : 町政懇談会では時間的なこともありました。広報とういん 8 月号でお知らせさせていただきますが、出前講座を実施させていただきます。5 人以上の団体で申し込みがあれば、職員が出向いて行って、いろいろな課題について話をさせていただきます。</p> <p>ごみにつきましても、今後、担当課が各自治会の集会所に出向いて、話をさせていただく予定をしております。</p> <p>委員 : 町政懇談会に行こうと思ったが、プラムチャンネルで第 1 回目の様子を見て、町長以下、役場職員がずらっといて、気軽に行ける雰囲気ではなかった。</p> <p>委員 : 町政懇談会に出させていただきましたが、団地の中ではコンポストは使用できないというのがみんなの頭の中に入っているが、何人かは使っているし私も使っている。</p> <p>団地の中で大きな補助対象のコンポストが置けないという方がいれば、小さなコンポストも補助対象にしたら生ごみは出さなくてよいのではないかと。税金を無駄使いしないためには、住民が協力しなければならないということを自治会を回られるのであれば言っていたきたい。</p> <p>今、補助金が削られたという話があるが、そういった無駄使いを無くせば必要なところに助成もできることを付け加えて強く指導していただきたい。</p> <p>総務部長 : 皆さんにご協力いただくことにより処理費が削減することができますし、町政懇談会では生ごみの堆肥化を中心にお話しさせていただきましたが、いろ</p>
--	---

	<p>んな方法があります。水切りでもいいですし、コンポストでもいいです。皆さん協力して、ごみを減らしていきましょうということから考えています。</p> <p>また、役場の担当課が各自治会を回り詳しい説明をさせていただきますので、その際はよろしく願いいたします。</p> <p>委員 : 町政懇談会をするのであれば、役場と自治会がタイアップしてもっと人を集めなければならない。</p> <p>委員 : 稲部小学校に行かせていただいたが、一緒に行った人が、どうでもいい話やったという感想であった。プリントも暗い中で見にくかったし、資料もどこでどんな調査をしたのかが曖昧で、最近の資料が欲しかった。次にあっても行かない人が多いと思います。</p> <p>委員 : 生ごみゼロ運動をどうして行くかのグランドデザインを描いて示さなければならない。</p> <p>政策課長 : 町政懇談会は政策課が広報広聴という立場から、どうあるべきかを自治会長とも相談とお願いをさせていただいたのですが、今回参加人数は200人ちょっとで期待していたよりは少なかったです。</p> <p>今後、ごみ問題としては、担当課が各自治会へ行かさせていただきますのでお願いいたします。</p> <p>委員 : 役場職員に危機意識がない。漫然と勤めている。</p> <p>委員長 : その他のところで他に何かございますか。よろしければ次に進みたいと思います。</p> <p>○財政課長「予算編成に係る年間スケジュール」説明</p> <p>総務課長 : 本日で7団体の提言をいただいたうち、6団体の</p>
--	--

取組姿勢をご報告いただきました。同じように行政側が「レビュー」で事務担当者がいただいた意見を26年度どういう方向で予算編成するかを考える場が「レビュー」であるをご理解いただきたいと思います。

この先の話ですが、昨年、55の補助金関係を財政課で見させていただいて、今回の6団体と同じような団体が17団体ほどありましたが、今後、正副委員長とどのように進めて委員会で議論いただくかをご相談いただく予定をしております。大きく、団体運営の補助と個人に還元する補助について、どういう分野に切り込んでいくかをご検討いただいで、予算編成に合わせてご意見を尊重して反映させていきたいと考えています。

委員長： 今後の進め方を副委員長と二人で検討させていただきたいと思います。

また、今日までの6団体の話が来年度予算にどう反映されるのかもウォッチしながら、昨年からの補助金の見直しをもう少し詳しく皆さんと検討していきたいと思います。

次回開催日 平成25年9月2日（月）午前9時30分から

委員長： そこでどういう検討をするかについては、これから改めて事務局と検討会をしたいと思います。

長時間ありがとうございました。

閉会：正午